

平成23年度

函館・大沼・噴火湾ルート 活動報告

1. ルート運営活動計画の進捗状況
2. 活動団体の活動状況及び課題
3. ルート運営活動計画の推進体制の状況及び課題
4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題

1. ルート運営活動計画の進捗状況

ルート名称: 函館・大沼・噴火湾ルート		報告者: 会長 金道 太郎					報告年月: 2012/3/31			
	ルート(エリア)運営活動計画方針	ルート(エリア)運営活動計画活動内容	No	活動名	主催	活動実施日	参加人数	活動状況資料番号	総括	
景観づくり	美しい景観とは何かについて考える	景観診断の参加	-	-	-	-	-	-	ここ数年美しい景観とは何かについてルートで検討を行って来なかったが、次年度国道5号の七飯町を中心とした景観診断を行う予定。	
		テーマごとのエリアの紹介	-	-	-	-	-			
	ビューポイントを発掘する	シーニックフォトクラブの設立	-	-	-	-	-	-	ビューポイントを発掘するためのバスツアー開催ではないが、カーボンオフセット型ツアーとして、シーニックdeナイト鑑賞バスツアーを今年度も実施。今年度は初めて1泊2日のバスツアーを実施した。	
		シーニックバスツアーの開催	1	シーニックdeナイト鑑賞バスツアー	シーニックdeナイト実行委員会	2月11日(祝)~12日(日)	17名(主催者1名、一般16名)	HA - 1		
		シーニックルートマップの作成	-	-	-	-	-	-		
	ビューポイント周辺の景観向上に取り組む	清掃活動の実施	2	シーニック清掃活動	函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議	4月29日(祝)	主催者300名	-	ビューポイント周辺の景観向上として、五稜郭タワー周辺等でシーニック清掃活動を継続的に実施。また、遠藤植栽として空港周辺や陸の玄関口である函館新道周辺においても継続的に活動を行った。	
		植栽活動の実施	3	函館ウェルカムロード植栽	函館ウェルカムロードの会	6月18日(土)	主催者150名	-		
			4	はこだて花かいどう植栽	函館花いっぱい道づくりの会	6月11日(土)	主催者1,100名	-		
		景観阻害の改善	-	-	-	-	-	-		
	観光振興	地域固有の資源を活かした観光メニューの創出	バル街V協賛イベント「街なか探訪・学び」ツアー (H19: シーニックバスツアー)	1	シーニックdeナイト鑑賞バスツアー	シーニックdeナイト実行委員会	2月11日(祝)~12日(日)	17名(主催者1名、一般16名)	HA - 1	地域固有の資源である食や体験、宿泊施設等を絡めたカーボンオフセット型ツアーを継続的に実施した。
「旧恵山町のフナ林と春の野の花の観察と生きた火山恵山とその周辺の歴史を学ぶ」ツアー (H19: シーニックdeナイト2008)			-	-	-	-	-	-		
「鹿部町間欠泉とホタテの耳吊り体験」ツアー (H19: 夏休み体験講座、恵山観察会)			-	-	-	-	-	-		
活動団体の連携強化と観光の質の向上		縄文文化を再現し体験する歴史探訪ツアー	-	-	-	-	-	-	ルート全体で活動団体の連携と観光の質の向上を図るためにシーニックdeナイトを継続的に実施。今年度は、函館市が実施している「光の小径」との連携を密にしながら取り組んだ。また、函館新道での取組である「はこだて花かいどう」も環境を重視した取組を推進した。	
		西部地区の歴史的街並み探索ツアー	-	-	-	-	-	-		
		温泉宿泊施設を拠点に各種体験を交えた「癒し」のツアー	1	シーニックdeナイト鑑賞バスツアー	シーニックdeナイト実行委員会	2月11日(祝)~12日(日)	17名(主催者1名、一般16名)	HA - 1		
		ルート全体で取り組むスマイルキャンペーン (H19: バリアフリーボランティア事業)	5	函館花いっぱい地球環境フォーラム	函館花いっぱい道づくりの会	11月19日(土)	350名(主催者100名、一般250名)	-		
		シーニックdeナイト	6	シーニックdeナイト	シーニックdeナイト実行委員会	2月1日(水)~18日(土)	主催者2,100名	HA - 2		
場所を変えた観光分科会の開催 (H19: 縄文の道フォーラム)		-	-	-	-	-	-			
歴史を学び活かす		「函館の歴史を学ぶ」講座	-	-	-	-	-	-	歴史を学び活かす活動として、縄文に特化した活動を継続的に実施した。	
	「函館の港を船上から学ぶ」講座 (H19: アンギン編み & 勾玉作り)	7	縄文染め	NPO法人函館市埋蔵文化財事業団	7月30日(土)	主催者20名	HA - 3			
	国際シンポジウム「縄文文化とユーラシアの株相」	8	国際シンポジウム「縄文文化とユーラシアの株相」	NPO法人函館市埋蔵文化財事業団	10月29日(土)~30日(日)	150名(主催者50名、一般100名)	-			

1. ルート運営活動計画の進捗状況

ルート名称: 函館・大沼・噴火湾ルート		報告者: 会長 金道 太郎					報告年月: 2012/3/31			
	ルート(エリア)運営活動計画方針	ルート(エリア)運営活動計画活動内容	No	活動名	主催	活動実施日	参加人数	活動状況 資料番号	総括	
地域づくり	自然を守りながらうまく活用していく	キャンプ&ラリーの開催 (H19: 赤松観察会)	9	長万部公園観察会	NGO函館自然観察会	6月12日(日)	主催者12名		自然公園などをガイドと一緒に勉強しながら観察する自然観察会も場所を変えて継続的に実施した。	
		横津岳ガイドツアーの開催 (H19: 恵山観察会)	-	-	-	-	-			
		自然環境教育プログラムの提供	-	-	-	-	-			
	ガイドの発掘・育成	大沼公園ボランティアガイド研修会	10	バリアフリーボランティア研修会	函館バリアフリーボランティアプロジェクト	7月23日(土)~24日(日)	一般20名		観光都市函館において、JR函館駅周辺のバリアフリーボランティアの活動を継続的に実施。	
			11	バリアフリーボランティア実施	函館バリアフリーボランティアプロジェクト	10月1日(土)~2日(日)	30名(主催者10名、一般20名)			
		ガイド発掘・育成のための連携づくり	-	-	-	-	-			
	地域と来訪者の心をつなぐ	人とひととのふれあい方について勉強する	-	-	-	-	-		地域と来訪者の心をつなぐ活動である「おもてなし」に関連する取組に特化した活動は行っていないが、ルートとして次年度取り組みたいと考えている。	
	内部的な関心の共有、意識醸成	函館・大沼・噴火湾ルート活動団体一覽作成 (H19: 代表者会議の運営体制の変更など)	12	ルート視察&勉強会	函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議	8月7日(日)	主催者20名		推進協議会の先生をお招きしてルート視察を行い、今年度の活動を紹介します、取組に対する助言を頂いた。	
	地域メディアとのタイアップ	FMいるかの情報誌「いるか通信」に特集記事掲載	-	-	-	-	-		地位メディアとのタイアップは数多く実施しているが、ルートとしてのタイアップがないため、次年度検討を行うことを考えている。	
		FMいるかの特別番組による情報発信	-	-	-	-	-			
	多彩な世代に訴えかける情報ツールの開発	シーニックかるたの作成 (H19: はこまち通信作成によるPRなど)	13	はこまち通信の作成	函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議	年4回発行	-		シーニック情報拠点である「函館市地域交流まちづくりセンター」で「はこまち通信」を年4回発行し、ルートの取組などを紹介した。	
		地域資源を説明するカードの作成	-	-	-	-	-			

カーボンオフセット型 シーニックバスツアー

【概要】 シーニックdeナイト2012に合わせ、カーボンオフセット型ツアーを実施しました。今年度は1泊2日のバスツアーを企画しました。函館を出発して大沼でスノーシュー体験、その後八雲町の噴火湾パノラマパークで行われたシーニックdeナイト2012を鑑賞し、鹿部町の鹿部ロイヤルホテルに宿泊しました。次の日、鹿部町のしかべ間歇泉公園を見学し、函館市縄文文化交流センターの館内見学・体験を行うという行程のバスツアーでした。

【日時】 平成24年2月11日（祝）～12日（日）

【場所】 函館市、七飯町、鹿部町、八雲町

【企画】 シーニックdeナイト2012実行委員会

【実施】 （有）正和観光

【料金】 大人9,500円、小学生7,600円、小学生未満6,400円（幼児無料）

【参加人数】 17名



▲スノーシュー体験in大沼



▲シーニックdeナイトin噴火湾パノラマパーク周辺



▲アンギン編み体験in函館市縄文文化交流センター

シーニックdeナイト2012

- 【概要】 シーニックdeナイトは、函館市や大沼などの国道や道道沿線を中心に、手作りのワックスキャンドルを設置点灯するイベントで、平成18年度から継続して実施しているルート連携活動です。ワックスキャンドルによるほのかな灯りは、ドライバーや地域住民、観光客の心を温かくし、安らぎを与えてくれます。
- 【日時】 平成24年2月1日（水）～18日（土）
- 【場所】 函館市地域交流まちづくりセンター、南茅部公民館、大沼国定公園、噴火湾パノラマパーク、函館駅正面通路、福島町横綱記念館
- 【主催】 シーニックdeナイト2012実行委員会
- 【参加人数】 2,000名以上



▲南茅部公民館



▲福島町横綱記念館



▲函館駅正面通路

縄文染め体験

【概要】 NPO法人函館市埋蔵文化財事業団では、日頃縄文に関する発掘や遺物整理などの活動を行っています。今回は、今年新たに取り組む体験講座「縄文染め」を行いました。縄文染めとは、野山の植物からもらう自然の色でハンカチを染めるもので、今回は、ヤマザクラの葉で染めてみました。

【日時】 平成23年7月30日（土） 10:30～15:00

【場所】 南茅部公民館

【主催】 NPO法人函館市埋蔵文化財事業団

【参加人数】 20名



▲縄文染めの説明



▲煮上がったタオル



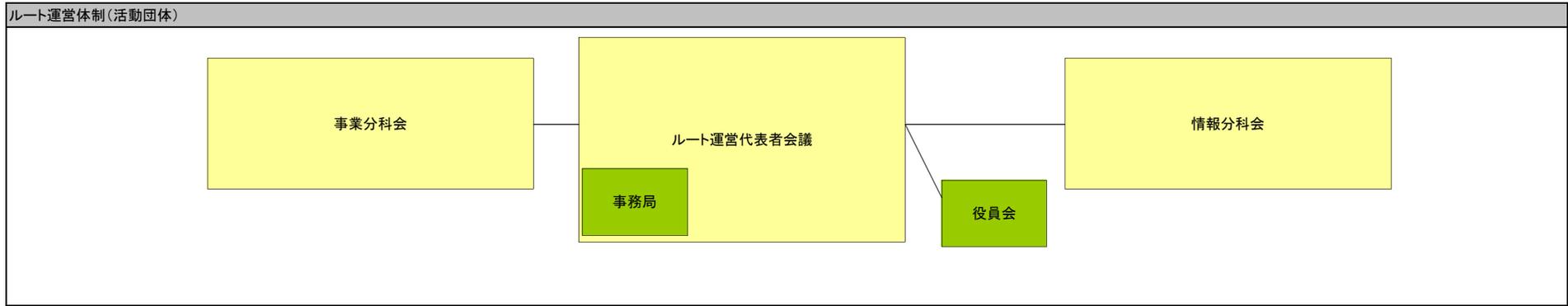
▲縄文染めの完成

3. ルート運営活動計画の推進体制の状況及び課題

ルート名称: 函館・大沼・噴火湾ルート	報告者: 会長 金道 太郎	報告年月: 2012/3/31
---------------------	---------------	-----------------

活動団体

函館商工会議所、(社)函館国際観光コンベンション協会、函館湯の川温泉旅館協同組合、函館商工会議所青年部、函館21の会、函館湯の川温泉旅館協同組合青年部、NGO函館自然観察会、NPO法人スプリングボードユニティ21、北の縄文CLUB、NPO法人函館市埋蔵文化財事業団、NPO法人どうなん「学び」サポートセンター、NPO法人函館エコロジークラブ、活力ユニット、函館すぶれっと、はこだて菜の花プロジェクト、ふしぎな花倶楽部はまなす会、函館花いっぱい道づくりの会、函館手工芸の会、(財)北海道国際交流センター、NPO法人NPOサポートはこだて、戸井コミュニティビジネス研究会、北斗市観光協会、kazeru & kazeru、(社)七飯大沼国際観光コンベンション協会、七飯町商工会、鹿部温泉観光協会、森町花いっぱい運動推進協議会、森町観光ボランティアガイドの会、八雲観光物産協会



基本方針	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
ルート運営代表者会議													
役員会											24日		今年度は代表者会議を行わなかったが、次年度は4月20日(金)に総会を行うことで決定している。
事業分科会													
情報分科会													

ルート名称: 函館・大沼・噴火湾ルート	報告者: 函館開発建設部	報告年月: 2012/3/31
---------------------	--------------	-----------------

基本方針	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
ルート運営行政連絡会議													今年度は行政連絡会議を行わなかったが、次年度代表者会議総会に合わせて開催を予定。

4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題

ルート名称: 函館・大沼・噴火湾ルート		報告者: 函館開発建設部		報告年月: 2012/3/31			
ルート(エリア)運営活動計画方針	平成23年度の活動内容	活動実施日	実施機関	成果及び課題	総括	活動No	
景観	美しい景観とは何かについて考える	-	-	-	-	-	
	ビューポイントを発掘する	シーニックdeナイト鑑賞バスツアー	2月11日(祝)~12日(日)	函館運輸支局	函館運輸支局がカーボンオフセット型ツアーへの参加を行った。	ルートの連携した取組であったため、行政連絡会議の参加も多く、参加者数も多かった。	1
	ビューポイント周辺の景観向上に取り組む	シーニック清掃活動	4月29日(祝)	函館開発建設部、函館運輸支局、渡島総合振興局、函館市、七飯町	各活動について行政連絡会議への参加呼びかけを行うとともに活動への参加を行った。また、はこだて花かいどうでは、函館開発建設部が全体会議への出席や打合せなどにより植栽前の草刈りや堆肥の搬入、マルチシートの敷設等の活動にも参加した。また、7月~9月の月1回の全体活動においても参加を行った。その他、函館運輸支局や渡島総合振興局、函館市などの行政機関も活動に参加した。		2
		函館ウェルカムロード植栽	6月18日(土)	函館開発建設部、函館運輸支局、渡島総合振興局、函館市			3
		はこだて花かいどう植栽	6月11日(土)	函館開発建設部、函館運輸支局、渡島総合振興局、函館市			4
地域	自然を守りながらうまく活用していく	長万部公園観察会	6月12日(日)	-			シーニック団体の個別の活動であったため、参加には至らなかったが、今後行政連絡会議への活動周知も含めて行っていきたい。
	ガイドの発掘・育成	バリアフリーボランティア研修会	7月23日(土)~24日(日)	函館運輸支局	バリアフリーボランティア研修会においては、函館運輸支局が司会・講師を務めるとともに、実際のボランティア日においても活動に参加した。その他、函館開発建設部も活動に参加した。	10	
		バリアフリーボランティア実施	10月1日(土)~2日(日)	函館開発建設部		11	
	地域と来訪者の心をつなぐ	-	-	-	-	ルートの連携した取組だけではなく、個別活動についての行政連絡会議への情報提供や活動参加を行っていきたい。	-
	内部的な関心の共有、意識醸成	ルート視察&勉強会	8月7日(日)	函館開発建設部、函館市	函館開発建設部や函館市がルート視察や勉強会に参加し、先生方や地域の方々との交流を深めた。	12	
	地域メディアとのタイアップ	-	-	-	-	-	-
	多彩な世代に訴えかける情報ツールの開発	はこまち通信作成	年4回発行	-	行政連絡会議との関わりがなかったため、次年度からは行政連絡会議の情報も発信できるようルートに情報提供を行っていきたい。	13	

4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題

ルート名称: 函館・大沼・噴火湾ルート		報告者: 函館開発建設部		報告年月: 2012/3/31			
ルート(エリア)運営活動計画方針	平成23年度の活動内容	活動実施日	実施機関	成果及び課題	総括	活動No	
観光	地域固有の資源を活かした観光メニューの創出	シーニックdeナイト鑑賞バスツアー	2月11日(祝)~12日(日)	函館運輸支局	函館運輸支局がカーボンオフセット型ツアーへの参加を行った。	ルートの連携した取組だけではなく、個別活動についての行政連絡会議への情報提供や活動参加を行っていききたい。	1
	活動団体の連携強化と観光の質の向上	シーニックdeナイト鑑賞バスツアー	2月11日(祝)~12日(日)	函館運輸支局	函館花いっぱい地球環境フォーラムでは行政連絡会議への参加呼びかけを行うとともに函館開発建設部や函館運輸支局、渡島総合振興局、函館市などの行政機関が活動に参加した。また、シーニックdeナイトでは、函館開発建設部や函館運輸支局、渡島総合振興局、函館市がキャンドル製作体験会に参加しキャンドルを製作したり、イベント当日においても活動に参加しキャンドルの設置・点灯・撤去等を行った。		1
		函館花いっぱい地球環境フォーラム	11月19日(土)	函館開発建設部、函館運輸支局、渡島総合振興局、函館市			5
		シーニックdeナイト	2月1日(水)~18日(土)	函館開発建設部、函館運輸支局、渡島総合振興局、函館市			6
	歴史を学び活かす	縄文染め	7月30日(土)	-	シーニック団体の個別の活動であったため、参加には至らなかったが、今後行政連絡会議への活動周知も含めて行っていききたい。		7
		国際シンポジウム「縄文文化とユーラシアの様相」	10月29日(土)~30日(日)	-			8

5. 平成22年度活動報告への助言に対する状況報告

ルート名称: 函館・大沼・噴火湾ルート	報告者: 会長 金道 太郎	報告年月: 2012/3/31
---------------------	---------------	-----------------

平成22年度活動報告への助言	平成23年度 状況報告	備考
<p>シーニックバイウェイ北海道の持続的推進を図るため、引き続き情報発信やPR活動等によるブランドの形成、地域への浸透に努めるとともに、地域ビジネスの展開、人材育成等によるルート活動の基盤強化や幅広い関係機関による支援体制の強化に取り組まれない。</p> <p>特に、本格実施から6年が経過し指定ルートも拡大、地域特性に応じた多種多様な成功事例や、課題等も明確になってきていることから、それらを共有しシーニックバイウェイ北海道をさらに活性化させる方策を検討されたい。</p>	<p>ルートHPや新聞記事等を含め、ルートの連携活動や個別活動の情報発信を行い、PR活動を行った。活動については補助金で運営している部分も多いため、まだまだ自律した活動とは言えないため、次年度は地域ビジネスを視野に入れた活動を行っていききたい。また、個別活動にもっと焦点を当て、ルート内で情報共有できるように行っていききたい。</p>	

ルート名称: 函館・大沼・噴火湾ルート	報告者: 函館開発建設部	報告年月: 2012/3/31
---------------------	--------------	-----------------

平成22年度活動報告への助言	平成23年度 状況報告	備考
<p>シーニックバイウェイ北海道の持続的推進を図るため、引き続き情報発信やPR活動等によるブランドの形成、地域への浸透に努めるとともに、地域ビジネスの展開、人材育成等によるルート活動の基盤強化や幅広い関係機関による支援体制の強化に取り組まれない。</p> <p>特に、本格実施から6年が経過し指定ルートも拡大、地域特性に応じた多種多様な成功事例や、課題等も明確になってきていることから、それらを共有しシーニックバイウェイ北海道をさらに活性化させる方策を検討されたい。</p>	<p>ルート連携活動については、行政連絡会議を通じ情報発信を行った結果参加が見込まれた。次年度は、ルートの個別活動についてもできる限り行政連絡会議への情報発信を行い、参加を行っていききたい。</p>	